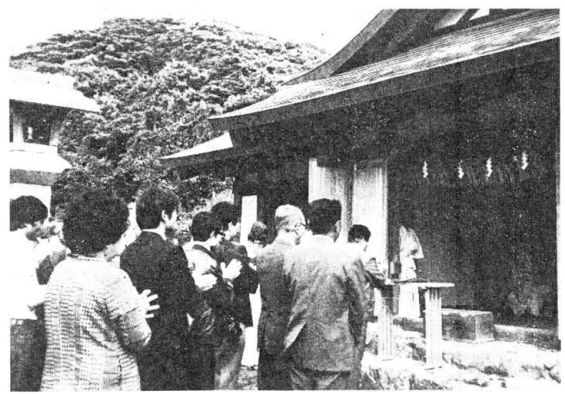




毎月十五日発行 所 社会 宗像大像 福徳会 電話 0941-1114 年定価一送料共 1000円

神具 装束 井筒 株式会社 本社 九州店 福岡市博多区東公園二二一(八三三) 電話福岡(五三)六五一九四五六番

沖津宮現地大祭 沖津宮遥拝所にて斎行



沖津宮現地大祭は五月十七日、相傳の葉に見舞われ残念ながら雨降らず、大鳥の沖津宮遥拝所にて蘇津宮司以下神職奉仕のもとに厳かに斎行された。

去る五月二十九日、出光興産株式会社徳山製油所にて、出光興産(株)徳山製油所二十周年記念祭行われる。

出光興産(株)徳山製油所二十周年記念祭行われる

徳山製油所は、出光興産株式会社が昭和二十一年に創設された。当時は「徳山製油所」として、出光興産株式会社の傘下で運営されていた。

聖地沖ノ島の祭祀伝承と史的意義

沖津宮遥拝所とは、沖津宮の神霊を祀るための施設である。その歴史は古く、沖津宮の祭祀伝承と史的意義を考察する。

と共、世界的水準の製油所を計画。徳山製油所は、出光興産株式会社の主力事業の一つとして発展してきた。

おしらせ

宗像大社中津宮七社揮毫会 第二十一回 要項 宗像大社中津宮七社揮毫会 第二十一回 要項

沖津宮遥拝所にての齋行。この齋行は、沖津宮の神霊を祀るための重要な儀式である。その歴史と意義を詳しく解説する。

宗像大社歌会詠草 第九回 毎月一日/切 詠草到着順

宮 田片山 一 天長の佳き日、雨降るるるの夜、テレヒ人見ゆる

原町 八波 五月 智恵をきき守りも青春の心、来ぬイノスの肩手に触れなる

河東 花田のきく 暴風は風の如く走り去るは、見知りぬ老婦人なきし

津丸 松尾 豊 今日この昨日のどのいきか、も話題なしての友と睦む

田久 立花 勇雄 機窓に光りまた夜の都日、本別野の夜櫻に見入りぬ

名残 竹原 圓 梅の葉落ち始めの裏庭の草、取り除く二人に

城ヶ丘 仰木 龜代 咲き誇るコノの梢にまよひ、出陣の道にタンポポ

福岡 吉田 信夫 たまき泣き聞かずと電話、に採り来る娘の七

返子 石松や寿子 徳の土をなして返子に、イノは少し色づく

田久 小方 実 交換に嫁のはやし新聞紙、少し讀んで帰る

田島 吉武 武雄 白く冠の冠の冠の冠、は朝もさわがし

深田 中野 節子 雨に濡れる砂を寄せて、孤らりにに叔母の墓前に

田熊 今村 重力 水遣い上野の御陶芸の由、き野橋と(由里)

福岡 林 まつえ 大きな住のあざむき、て目上之山南あれ

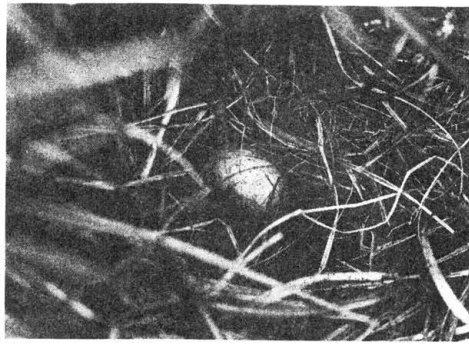
宗像 田中 春子 威厳に怒りしは、そこのみの重なりに残れど

宗像 天野トモエ お母に大きき、を病めし姉の眼を開ける

津屋崎 麦野 時雄 荒庭の雪刈り取らず、たる雪を焼く時

海の正倉院沖ノ島 磯釣り問題について (その一)

玄灘の海水に千古わたりない。海の正倉院沖ノ島は神島である。神島、史蹟保護の地である。沖ノ島は、我が国最大の自然記念物の指定地である。沖ノ島は、我が国の領土である。沖ノ島は、我が国の領土である。沖ノ島は、我が国の領土である。



(上) 沖ノ島よりみた小屋島、御門柱、天狗岩
(下) 親鳥に放棄されたカムリウミスズメの卵

海に浮かぶ沖ノ島は、我が国の領土である。沖ノ島は、我が国の領土である。沖ノ島は、我が国の領土である。沖ノ島は、我が国の領土である。沖ノ島は、我が国の領土である。

話題の新車をみる (2) ギヤラン・シグマの巻

日本自動車工業会が五月発表した四月の自動車生産は、輸出の対応する様子シリアルを設けた。好調な生産は、引き続き高水準で計られている。

四輪車は、従来の最高であった昨年十月の六十七万五千九百九十九台を上回り生産された。更にこのうち八万三千二百五十七台を記録した。これは最高級の「シグマ」シリーズの生産量である。

また、三菱自動車工業は五月十日、乗用車「ギヤラン」をラモデルンチングした「ギヤラン・シグマ」を発売した。これは、従来の「ギヤラン」よりも、更に一歩進んだモデルである。



三菱自動車工業は、五月十日、乗用車「ギヤラン」をラモデルンチングした「ギヤラン・シグマ」を発売した。これは、従来の「ギヤラン」よりも、更に一歩進んだモデルである。

博多港近郊から訪れる遊漁船は、昭和四十二年頃から折々みられるようになった。その数は、昭和四十二年六月二十五日、本島北側に上陸した約客三十九名に達した。そのうち、釣客は約二十名に達した。これは、沖ノ島の磯釣り問題について、重要な事実である。

沖ノ島の磯釣り問題は、沖ノ島の自然環境を保護するため、厳格な規制を課す必要がある。沖ノ島の磯釣り問題は、沖ノ島の自然環境を保護するため、厳格な規制を課す必要がある。

このうち、小数の遊漁船が折々訪れ、荒天の時は「難港」に一夜泊ることもあり、神社職員に家庭用短の連絡を依頼する者もあつたが、家族の不安を慮り、これらの遊漁には応じていない。

昭和四十八年に入ると遊漁船の数は、更に増加した。これは、沖ノ島の磯釣り問題について、重要な事実である。

親善野球大会 対太宰府天満宮

恒例の親善野球大会が五月二十五日、親善野球大会が行なわれ、対太宰府天満宮の試合が行なわれた。この試合は、対太宰府天満宮の試合が行なわれた。

対太宰府天満宮の試合は、対太宰府天満宮の試合が行なわれた。対太宰府天満宮の試合は、対太宰府天満宮の試合が行なわれた。

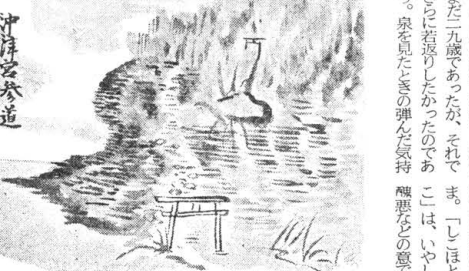
社務日誌抄

- 五月十日 臨時評議会出席、興神社、出雲美術館員七名参拝
- 五月十日 龍馬氏(八幡住) 献木
- 五月十日 龍馬氏(八幡住) 献木
- 五月十日 龍馬氏(八幡住) 献木

瀛津嶋防人日記

老人の若く水を渡津嶋。しかし、その水は、老人の若く水を渡津嶋。しかし、その水は、老人の若く水を渡津嶋。しかし、その水は、老人の若く水を渡津嶋。

老人の若く水を渡津嶋。しかし、その水は、老人の若く水を渡津嶋。しかし、その水は、老人の若く水を渡津嶋。しかし、その水は、老人の若く水を渡津嶋。



沖津宮参道

沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。

沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。沖津宮参道。

